

あゆち

No.20



特集

日本を「結ぶ」交通

愛知県は、日本列島のほぼ中央部に位置する、いわば東西の「結び目」です。徒歩や馬で旅した時代から宇宙を目指す近未来まで、列島の結び目・愛知を中心に交通の過去・現在・未来がわかる資料をご紹介します。



東 海 道

古代・中世より都と東国を結ぶ幹線道路として発展してきた「東海道」は、近世になると江戸幕府によって五街道の筆頭格として整備され、江戸・日本橋から京都・三条大橋までの間に53の宿場が置かれたことから「東海道五十三次」とも呼ばれました。現在もその経路は国道1号や鉄道の路線に受け継がれ、日本の交通・物流を支えています。



『近世の東海道』 本多隆成 著 清文堂出版 2014

東西交通の大動脈として発展した近世の東海道について、交通史研究の成果をふまえてまとめられた概説書。歴史や宿駅などの制度・施設の解説に加え、紀行文をもとに当時の様々な旅の様子も紹介しています。



『古地図・道中図で辿る東海道中膝栗毛の旅』 人文社 2006 (古地図ライブラリー)

弥次さん・喜多さんのお伊勢参りと京・大阪見物の珍道中とともに、古地図や浮世絵などで江戸時代の旅や風俗・文化をビジュアル的に楽しめる本。名所・旧跡の解説には現代の地図も併載されています。

『東海道 東海道五拾三次 広重と大正期の写真』 知足美術館 編集 知足美術館 2007 (初版：東光園 1918)

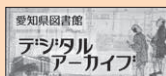
広重の「東海道五拾三次」(保永堂版)の版画55枚と、ほぼ同じアングルから撮ったと思われる大正期の写真が対比する形で収録されており、開発などで失われた東海道の原風景が蘇ります。

『今昔東海道独案内 新装版』 今井金吾 著 日本交通公社出版事業局 1994

旧東海道を踏査し、全行程を宝暦版「新板東海道分間絵図」との今昔対照をはじめ、豊富な文献をもとにした解説とともに2万5千分の1地形図上に正確に再現。江戸時代と昭和期の東海道を同時に辿れる街道歩きのパイプルの本ですが、20年分の補遺は追加されているものの、本編の情報は初版(1974)時のものなので、実際に歩く時には現在の道路地図などもご用意ください。

江戸時代の旅行ガイド

江戸時代、愛知県内には東海道以外にも佐屋路をはじめ複数の街道があり、多くの人や物資が往来しました。やがて、こうした街道・宿場の整備や経済の発展によって庶民も社寺参詣や物見遊山の旅を楽しむようになると、各地の名所旧跡・神社仏閣の由緒来歴や風俗・物産についてを挿絵入りで記した通俗地誌である「名所図会」など、様々な旅行案内書が刊行されました。当館では『東海道名所図会』(寛政9年)や『尾張名所図会』(天保15年~昭和8年)などを所蔵しており、そのデジタル画像をホームページ上でご覧いただけます。



- 『東海道名所図会を読む』粕谷宏紀 著 東京堂出版 1997
- 『尾張名所図会 絵解き散歩 増補版』前田栄作 文 水野鋆造 写真 風媒社 2013

鉄 道



明治5年9月12日(旧暦)、新橋~横浜間に日本で最初の鉄道が開業しました。開業式のお召列車には、明治天皇のほか西郷隆盛、大隈重信ら綺羅星のごとき高官たちが乗車し、鉄道の時代が華々しく幕を開けました。

初の国産トンネル



『開化鐵道探偵 [1]』 山本巧次 著 東京創元社 2017

鉄道工事の現場で続く不審な事件。鉄道局長・井上勝は、技師見習の小野寺に浪人暮らしの元八丁堀同心草壁を訪ねるよう命じた一日本人の手で掘られた最初のトンネルである逢坂山トンネルを舞台とした鉄道ミステリ。

『武豊線物語』河合由平 著 交通新聞社 2009

明治19年3月1日、愛知県内で最初の鉄道として武豊~熱田間が開通した武豊線。当初は中山道鉄道建設のための資材運搬線として計画されました。東海道線の生みの親とも言われる武豊線の歴史を多数の写真資料とともに振り返ります。

愛知鉄道事始

電車登場



『名古屋電気鉄道沿線案内』 名古屋電気鉄道 1914 『一宮線犬山線時刻表 大正2年刊』 名鉄資料館 1999 (名鉄電車時刻表復刻シリーズ)

明治31年5月6日、笹島~愛知県庁前に日本で2番目となる電気鉄道を開通したのが名古屋電気鉄道です。その後、大正11年に市内線を名古屋市に譲渡し名古屋鉄道として開業、名岐鉄道時代を経て、昭和10年8月1日、愛知電気鉄道との合併によって現在の名古屋鉄道が誕生しました。



『立腹帖』内田百閒 著 筑摩書房 2002

♪汽笛一声新橋を、はや我が汽車は離れたりー鉄道唱歌、機関車、夜汽車、初乗りー明治・大正・昭和の鉄道のあれこれを綴ったエッセイ。汽車をこよなく愛する百閒先生の筆に誘われて、昔の鉄道の旅を楽しんでみませんか？

元祖乗り鉄？!



夢の超特急



『東京オリンピックと新幹線』東京都江戸東京博物館他 編著 青幻舎 2014 終戦から19年目に開催された東京オリンピック。その開会式に先立つ昭和39年10月1日、東海道新幹線が開業しました。昭和39年は日本が戦後の復興を経て高度経済成長期を迎えた時代。それは、戦争の記憶が色濃く残る時代でもありました。

鉄道前史 幕末日本と鉄道知識

鎖国下の日本において、鉄道の知識は長崎のオランダ商館から伝わってきました。幕府に提出された弘化3年(1846)「和蘭別段風説書」にはパナマ地峡の鉄道建設計画に関する風聞が記録されています。佐賀藩や薩摩藩など積極的に鉄道知識を取り入れようとした藩もあります。嘉永7年(1854)に薩摩藩から出版された『遠西奇器述』には蘭学者川本幸民が作成した蒸気車の機構図が掲載されています。さらに、慶応2年(1866)に出版された幕末のベストセラー福澤諭吉著『西洋事情』によって鉄道知識は多くの人々に広まりました。

『西洋事情』 福澤諭吉 著 1866



自動車 飛行機

自動車や飛行機が、日本に初めて登場したのは明治期です。

その後、戦時中の軍用車・戦闘機の製造、終戦直後の生産制限を経て、自家用車・旅客機の開発と普及が進み、私たちの生活に身近な存在となりました。愛知県は、若宮大通・久屋大通の100メートル道路や複数の高速道路、2つの空港があり、陸路・空路における交通・物流の拠点でもあります。

『自動車と人間の百年史』

高田公理 著 新潮社 1987

日本に自動車が登場して開発と普及が進んでいく過程や、各地域で交通手段として生活に取り入れられていく様子が描かれています。名古屋については、戦後の復興計画により100メートル道路の整備をはじめとする道路拡幅事業が行われたことが、都市の発展につながったと紹介されています。



『初代クラウン開発物語』

桂木洋二 著 グランプリ出版 2015

日本初の純国産乗用車として誕生した初代クラウンが、どのようにして生み出されたのか、開発担当者の証言をもとにまとめられています。巻末に歴代クラウンの写真と各車体の性能が掲載されています。



『名古屋空港』 遠藤俊行 著

TK プレスセンター 2004

中部国際空港が開港する以前、名古屋空港には様々な国の飛行機が飛来していました。本書は、それらの飛行機をさまざまな角度から撮影した写真集です。特に、名古屋城やJ R セントラルタワーズを背景に撮られた写真は当時を思い出させてくれる貴重な資料です。



『中部国際空港物語』 溝口泰正 著

中日新聞社出版開発局 2008

昭和41年に「中部に新しい国際空港を」と愛知県議会で提言されてから、中部国際空港（セントレア）が開港するまでの約40年の長い道のりが書かれています。東海3県の自治体、各企業など多くの人たちが開港に向けて奮闘した歴史を紐解いていきます。



『ハイウェイ・マイウェイ 道のロマンにかけた男たち』 四方洋 著 毎日新聞社 1993

今や長距離移動にはかせない高速道路。日本で初めて開通したのは、昭和38年名神高速道路の兵庫県尼崎—滋賀県栗東間です。初めての高速道路に運営側も利用者側もとまどっていたことが分かる、面白いエピソードが紹介されています。

『図解・燃料電池自動車のメカニズム 水素で走るしくみから自動運転の未来まで』 川辺謙一 著 講談社 2016

燃料電池自動車は、静かでスムーズな走行性能と、走行中に有害物質を排出しない環境性能に優れ、近年注目されています。燃料電池自動車をはじめ、電気自動車やハイブリット自動車の構造や走行のしくみなどが解説されています。

『航空から見た戦後昭和史』 夫馬信一 著 原書房 2017

国産旅客機「YS-11」をはじめとする航空機が、戦後日本の交通と国際化をどう変えていったかを歴史的な事件と共に振り返ります。昭和39年東京オリンピックの国内聖火リレーの裏には、YS-11の活躍がありました。



社史からわかる愛知の自動車と飛行機

愛知県図書館では、4階ビジネス情報コーナーと3階地域資料エリアに様々な企業や団体の社史を収集しています。是非ご利用ください！

『トヨタ自動車75年史 もっといいクルマをつくろうよ』 トヨタ自動車 編 2013

豊田自動織機が自動車事業へ挑戦するところから、グローバル企業へと躍進を遂げた変遷について、詳細に綴られています。サブタイトルの「もっといいクルマをつくろうよ」という言葉は、豊田章男社長がトヨタの“ブレない軸”として就任時に提言したものです。

『三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所五十年史』 名航50年史編さん委員会 編 2007

大正・昭和の航空機から現代のロケットの製造までの沿革、経営管理、製品について書かれています。また、開発された航空機の写真も多く収められています。

『飛翔 NEO 新生10年のあゆみ』 名古屋空港ビルディング 編 2015

現在、コミューター航空やビジネス機などの小型機の拠点となっている県営名古屋空港。第1章では、名古屋空港が「県営」になるまでの歴史が主に書かれています。第2章では、中部国際空港と名古屋空港の役割に焦点をあてながら10年を振り返ります。

『空飛ぶクルマ 電動航空機がもたらすMaaS革命』 根津慎 著 日経BP社 2019

飛行機と自動車が融合した“空飛ぶクルマ”は、トヨタ自動車の特許出願するなど、世界中で新しい移動手段として開発が進められています。都市部においては渋滞問題を解決する手段として、災害時や離島・中山間地域においては人命救助や物資支援の救世主として期待されています。

海 運

日本列島のほぼ中央に位置する愛知県。県内にある名古屋港をはじめとする港湾は、古くは中世の頃から中部圏と関東圏、関西圏を結び、生産と物流の拠点として発展してきました。なかでも名古屋港は、今や日本一の貿易額を誇る世界有数の港湾に成長しました。

港湾の歴史をたどる

『名古屋港開港 100 年史』
名古屋港開港百年史編さん委員会 編集
名古屋港管理組合 2008

名古屋港は明治 40 年に開港しましたが、その築港は莫大な費用がかかる困難な事業でした。開港 100 年のあゆみから工法まで、名古屋港を深く知ることができる 1 冊。



『三河港のあゆみ 写真で綴る 30 年』
愛知県三河港務所 1992

三河港は過去 20 年以上にわたり、自動車貿易で世界でもトップレベルの取り扱いを誇る重要港湾です。自動車を中心とした“ものづくり”を支えた 30 年の変遷を写真で紹介しています。



びしゅうかいせん

尾州廻船 ～あいちの海運～

『尾張千石船』 川合彦充 著
亀山巖 1969

名古屋豆本第 13 集。限定 300 部で予約頒布された豆本です。千石船、尾張廻船などが紹介されています。



『内海船と幕藩制市場の解体』
斎藤善之 著 柏書房 1994

知多半島南知多町を拠点として、経済流通の役割を担った内海船の実態を詳しく研究した学術書です。



漂流を乗り越えた「音吉」について

江戸時代の物流を支えた尾州廻船でしたが、海難事故もしばしば発生しました。漂流の果て、異国を転々とする中、聖書の日本語訳事業に協力した小野浦（美浜町）の音吉のことは、ノンフィクションや小説で取り上げられています。

- 『につぼん音吉漂流記』 春名徹 著 晶文社 1980
- 『海嶺』 三浦綾子 著 朝日新聞社 1981



音吉らの頌徳碑（美浜町）

リニア中央新幹線・航空宇宙産業

もっと速く、そして宇宙へー時代は進み、科学は「人を乗せて移動できる最速の車両」を目指して技術開発が進みます。超伝導技術を使ったリニアモーターカーは、「リニア中央新幹線」として 2027 年の「品川－名古屋」間の開通を目指し現在工事が進んでいます。また、宇宙を目指すロケット技術も発展し、より速く、そしてより高くへの移動が可能になります。

『リニア中央新幹線に未来はあるか 鉄道
の高速化を考える』 西川榮一 著
自治体研究社 2016

リニア中央新幹線について、技術、環境、安全などさまざまな面から検証・解説しています。「スピード」の価値を再考する章もあり、「もっと速く」を目指すことは果たして幸福につながるのか、ということを考えさせられます。



『中部圏経済白書 2018 好調が続く中部圏経済、そしてリニア時代に向けて』
中部圏社会経済研究所 2018

交通網の発達、経済の発展をその目的の一つとしています。本書は後半の 50 ページをかけて「リニア中央新幹線の経済効果」として、その建設が中部圏の経済に与える効果の試算を行っています。



もっと速くーリニア中央新幹線

そして宇宙へー航空宇宙産業

『航空機産業と日本 再成長の切り札』
中村洋明 著 中央公論新社 2017

「三菱スペースジェット」の開発で各方面からの関心が高まっている「国産ジェット機」。工業大国でありながら、現在旅客機は生産されず、「できない」と思われて（誤解されて）いますが、本当に「できない」のでしょうか。国内航空機部品メーカーを具体的に検証しながら、どうすれば航空機産業の振興につながるのかを考えます。



『世界一わかりやすいロケットのはなし』
村沢譲 著 KADOKAWA 2013

平成 25 年に打ち上げられたイプシロンロケットまで 100 余りに及ぶ日本のロケット、人工衛星、探査機などを年代順に紹介。出版年が少し古く続編が待たれますが、およそ 40 年前から連綿と続く日本のロケット開発を概観できます。県内に部品を製造している工場もあり（下のコラム参照）、遠くへ旅するロケットに親近感が湧くかも。



アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区

平成 23 年 12 月に愛知県・岐阜県を区域として指定されたこの長〜い名前の特区は、区域を年々拡大し、現在は中部 5 県の 400 弱の企業や団体が参加しています。「航空宇宙産業の世界三大拠点の一つ」を目指して研究開発から設計・製造・保守管理まで全ての工程の集積化を図っています。国によるこの特区の評価も高く、多くの企業が支援措置を活用し、今後も発展が期待されます。この特区については愛知県もパンフレットを発行して PR しており、県のホームページからも見ることができます。区域の特徴や特区の支援措置などが多くの図表や事例とともにわかりやすく説明されています。

1階・観光情報コーナー

ヨッテコ
Yotteko

ヨッテコ
Yottekoの一角に東三河をはじめとする県内市町村の観光情報を集めたコーナーがあることをご存じですか？

県内全市町村の最新のパンフレットや地域情報誌、イベントのチラシなど旬の情報をご自由にお持ちいただけるコーナーになっています。

知っているようで知らない、近いようでけっこう遠くて、実は深い。一回だけじゃわからない。そんな愛知県（じもと）の魅力を一度手に取ってご覧ください。

「二度目の旅は図書館から」

ここから愛知をめぐる素敵な旅を始めてみませんか。



あゆち 愛知県図書館報 第20号

令和2年3月発行

- 編集・発行 愛知県図書館
〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目9-3
電話 (052) 212-2323 (代表) / (052) 212-3200 (調査相談)
ホームページ <https://www.aichi-pref-library.jp>
携帯サイト <https://websv.aichi-pref-library.jp/k/index.html>
●開館時間 火曜日～金曜日 10時～20時
(児童図書室・視覚障害者資料室は10時～18時)
土・日・祝日 10時～18時
●休館日 月曜日、毎月第2木曜日(その日が祝日(振替休日・国民の休日)に当たるときは開館、次の平日に休館)、年末年始、館内整理のための休館

スマホ対応のHPが
開設されました！

スマホHP



携帯サイト



イベントや新着情報等
お知らせします。

